

学内施設

◆ 図書館

図書館は昭和24年6月に発足し、幾度の名称変更、建物の改修、増改築を経て、府中地区に府中図書館、小金井地区に小金井図書館が設置されています。

館内は、すべて開架方式になっており、国内外の図書、雑誌などの資料が利用しやすくなっています。また、業務をすべて電算化し、OPAC（オンライン蔵書目録）では約22万冊の図書及び約1万2千タイトルの雑誌の所蔵検索が可能です。さらに、図書館ホームページから約5千タイトルの電子ジャーナルと主要なデータベースが利用できる環境を整え、利用者サービスの向上を図っています。入退館、貸出、返却、予約などのすべてのサービスは、学生は学生証と兼用の、職員は職員証と兼用の図書館利用者カードによって行い、自動貸出返却装置も設置されています。

利用者教育は、新入生に対しては、「農工大生のため

の図書館活用ガイド」をテキストとして、図書館の機能紹介、資料の利用方法などを、研究室所属の学生については、文献検索のオリエンテーションを実施しています。



図書館蔵書数

平成21年3月31日現在

蔵書数	図書冊数		雑誌種類数	
	和書	洋書	和書	洋書
総記	18,715	2,467	453	32
哲学	9,105	2,210	51	25
歴史	12,262	2,129	36	4
社会科学	42,835	6,974	591	127
自然科学	87,410	95,351	1,094	1,877
工学	84,967	40,762	1,633	2,729
産業（農学等）	53,279	14,539	2,724	609
芸術	6,784	1,515	88	28
語学	9,059	4,266	53	92
文学	23,114	6,275	40	32
小計	347,530	176,488	6,763	5,555
合計	524,018		12,318	

図書館利用状況

平成20年度

	府中	小金井	合計
閲覧座席数	411	518	929
入館者数	145,640	231,544	377,184
貸出者数	18,676	23,568	42,244
貸出冊数	36,295	49,019	85,314
文献複写件数（受付）	2,018	8,432	10,450
文献複写件数（依頼）	1,240	1,381	2,621
文献複写枚数（受付）	10,962	58,579	69,541
文献複写枚数（依頼）	5,629	8,143	13,772



府中図書館



小金井図書館

学内施設

◆ 大学教育センター

大学教育センターは、本学の教育理念を実現するために、全学的な視点から教育及び学生の受入に関して主導的役割を果たすことを目的として、平成16年4月に設置されました。これまでに教育プログラム、アドミッション、教育評価・FDの三部門を中心に4名の専任教員と12名の兼務教員が協力連携して、全学共通教育カリキュラムの立案支援、学生の受入に関する調査・解析、入試広報体制の確立、教育評価や教育改善、教職員の職能開発及び認証評価や法人評価への対応等を進めてきました。

さらに、次の5年を見据えて、以下の活動指針を策定し、本学の教育の更なる進展に資する活動を推進していきます。

- ① 科学技術系研究大学に相応しい幅広い学士力を保証する教育システムの構築と教育改善を提言・支援する。
- ② 大学院における研究を推進するためのあるべき教育シ

ステムの構築を提言・支援する。

③ 教育を担う学部・学府との情報共有による連携を強化する。

④ 優秀な学生を受け入れるために、入試制度の改善・入試広報および高大接続の充実を支援する。



◆ 産官学連携・知的財産センター

産官学連携・知的財産センター（以下、センター）は、昭和63年度に設置された共同研究開発センターを母体とし、平成15年度から実施してきた文部科学省大学知的財産本部整備事業を継承し、共同研究施設、インキュベーション施設、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーから成り、知的財産の創造・保護・活用の推進をより総合的・戦略的に行える組織として平成16年度の国立大学法人化を期に設置されました。

平成17年度のスーパー産官学連携本部整備事業により、センターを核とし、学長を本部長とした産官学連携戦略本部（平成20年度から大学戦略本部に改組）を設置し、また、平成19年度の国際的産官学連携推進体制整備事業の下に体制整備の強化を図り、イノベーション創出

と新産業創出を目的とし、グローバル産官学連携活動を推進しています。



◆ 国際センター

国際センターは、全学的な国際交流支援組織として、平成19年度に設置されました。

本センターでは、本学の国際交流事業の企画および実施を推進すること、また、広い国際感覚を持ち、国際社会で活躍できる人材を育成することを目指しています。

〈国際センターのミッション〉

- ・ 本学の国際戦略策定のための企画・立案
- ・ 姉妹校との連携強化による国際交流の活発化
- ・ ダブル・ディグリー・プログラム等の立案ならびに実施
- ・ 質の高い留学生の確保のための戦術立案
- ・ 留学生に対するワンストップ・サービスの実施
- ・ 日本人学生の海外留学の促進
- ・ 外国人留学生のための日本語・日本事情教育及び生活指導・相談
- ・ 国際的産官学連携の取組みの強化

各学府、大学教育センター、産官学連携・知的財産センター等の学内教育研究組織と連携しつつ、下記の業務に取り組んでいます。



◆ 保健管理センター

保健管理センターは、府中地区と小金井地区（分室）にそれぞれ配置されており、学生や教職員の心身の健康の維持・増進を図るため、医師、カウンセラー、看護師、非常勤学校医のスタッフにより、次のような業務を行っています。

- (1) 定期健康診断
- (2) 健康相談
- (3) カウンセリング
- (4) 病気やけがの応急処置
- (5) 医療機関の紹介
- (6) 健康診断書の発行
- (7) 健康教育
- (8) 生活習慣病予防相談
- (9) 禁煙・受動喫煙に関する相談
- (10) 禁煙教室



◆ 総合情報メディアセンター

大学の教育研究における情報技術の役割は、単なる道具としてではなく本質的な意味合いを持ちつつあります。総合情報メディアセンターは、従来の本学における情報処理設備や情報ネットワークを一元的に運用することを目指した総合情報処理センターを一段階ステップアップし、環境、生物、生命、化学、機械、物理、電子等の高度研究情報の基盤を整備して独創的な研究を行うと同時に、全学的な教育・研究・事務の情報化の在り方をIT時代に合わせた姿に変革し、海外への情報発信や身近な地域への貢献が可能な本格的な情報の中核センターとして、平成14年4月に設置されました。

本センターでは、学術情報コンテンツの作成、保存、保守及び情報発信を行うためのプログラムの開発をする「高度研究基盤分野」と、高品質ネットワークシステム的设计、大規模情報データ処理技術の高度化に関する研究及びITスキルアップ教育法に関する研究を行う「情報技術基盤分野」の2つの分野から構成された教員組織となっています。大学院・学部・学内施設等における研究と連携して高度研究情報基盤の充実と独創的な教育研究を推進するとともに、新しい情報技術を常に学外から導入し情報資源の活用を図り、同時に大学構成員全体を巻き込んだ大学の情報化を図ることを目標としています。



学内施設

◆ 学術研究支援総合センター

学術研究支援総合センターは、本学の学術研究の総合的な推進支援機能の整備・充実を図り、教育研究の進展に資することを目的として、平成20年4月に学内の共同利用施設であった遺伝子実験施設と機器分析センターを統合して発足しました。現在、センターの業務は、以下の2施設で実施しています。

遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、遺伝子組換え実験・遺伝子組換え生物等の使用を伴う教育研究開発等を行い、あわせて安全管理に関する教育訓練を行う機能を持った全学施設として平成6年度に府中キャンパスに設置されました。遺伝子組換え生物の各種規制レベル（P1～P3）に対応した遺伝子実験室及びRI実験室が整備され、主要機器として、DNA抽出機、DNAシーケンサー、核酸情報解析装置、蛍光画像解析装置、RI画像解析装置、分離用超遠心機、シンチレーションカウンター、電子顕微鏡、パーティクルガン等が設置されています。施設業務として学内利用だけでなく、学外の社会人や中学・高校教員を対象とした公開講習会の開催や、他大学や企業等との共同研究の推進を行っています。



機器分析施設

先端研究は、高度な機器分析技術によって支えられています。機器分析施設では、機器の原理、構造、利用技術の学習、さらに具体的な試験試料を用いての実習を集中的に行う「教育プログラム」を実施することによって、高度技術を身に付けた人材を養成しています。現在、実施されているのは核磁気共鳴分光、質量分析、X線結晶解析、電子顕微鏡ですが、今後メニューを増やす予定です。本施設では、その他、表面分析装置、電子スピン共鳴装置、X線マイクロアナライザー、薄膜材料特性解析装置など、学内に設置されている主要な分析機器について、その利用状況を集中管理しています。また、本学以外の国内外研究機関に設置されている大型あるいは特殊な分析機器の利用に際してのコーディネートもしています。



◆ 科学博物館

工学部の前身である農商務省農務局蚕病試験場の参考品陳列室として、明治19（1886）年に創設された博物館を前身としており、大学附属の専門博物館という使命から、学術的価値のある資料が多く集められ、その時代において、学生の教育上あるいは産業界の指導的役割を果たした資料が多数収蔵されています。

主な所蔵品は、養蚕・製糸・機織に関する素材と道具類、紡績機や自動繰糸機などの大型繊維機械類、天然繊維及び合成繊維、さらには、500点を超える養蚕をテーマとする江戸時代から明治時代の浮世絵のコレクションなどを小金井キャンパスに所蔵しており、繊維科学と技術の歴史を体感できるユニークな博物館として一般公開されています。

さらに、友の会サークル、子供科学教室、ボランティア団体「繊維技術研究会」などの活動や、特別展、サークル作品展を通じて、地域社会の教育、文化にも貢献しています。

平成20年度の全学化を期に、これまでの展示活動に加え、本学の研究による新しい発見や最先端技術を紹介する展示フロアの新設とともに、農学部分館における資料等の展示も予定しており、本学の過去・現在・未来を語る「情報発信基地」としての役割を果たします。



◆ 環境安全管理センター

東京農工大学は、高度な人材育成と知の創造を通して社会に貢献することを使命としています。その使命を果たすためには、教育研究活動を安全に円滑に実施しなければなりません。また、構成員である学生・教職員の健康と安全を確保することも大変重要なことです。そのような背景のもと、環境安全管理センターは平成20年11月に開設されました。

環境安全管理センターでは、本学の環境目標策定など環境問題に対する取り組みを通して環境の保全をはかり、また、環境関連の法令・条例を厳格に遵守し、管理の徹底をはかっています。さらに、予期せぬ各種災害等に備えるため、地域を巻き込んだ防災対策及び実施体制の整備を進めています。これらの活動を通して本学の構成員ならびに地域の方々に安心していただける状況をつくりあげるべく全力を尽くしています。



学内施設

◆ 女性未来育成機構

女性未来育成機構は、平成21年2月、本学の女性研究者の育成及び活躍の推進を目的に、全学的な女性研究者の研究推進拠点として設立されました。本機構は、女性研究者の支援と環境整備を実施する「キャリア支援部門」、女性研究者養成のための教育プログラムを行う「キャリア加速部門」、女性研究者のプロジェクト研究拠点を担う「キャリア開発部門」の3部門からなり、女性研究者の教育力向上と研究力向上に向けた取組みを行っています。「キャリア支援部門」では、女子学生対象のキャリアパス支援、女性教員・研究者対象の出産・育児・介護支援、女性卒業生対象の卒業生支援、全学的なエンパワーメント環境整備の4つの事業を実施し、本学に関わる全世代の女子学生・女性研究者・女性卒業生をサポートしています。



◆ キャリアパス支援センター

キャリアパス支援センターは、文部科学省の科学技術人材養成等委託事業である「科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業」に採択され平成19年8月に設立されました。この事業は、高度な専門性を有する博士号取得者等に、企業等の幅広い分野における社会活動を先導できるよう、広い視野を持たせ、企業や法人、研究機関等、多様な方面への就職活動を支援するものです。

対象とする若手研究者は、本学の大学院博士後期課程に在籍する学生のみならず全国に設立されている6つの連合農学研究科を構成する18大学の博士課程学生及びポストドクター等です。

これらの教育機関の連携により、全国の若手研究者の積極的な育成と就職支援に向けた活動に、本学キャリアパス支援センターを情報発信源とした全国展開型のキャリアパス支援の実質的な拠点を形成して、取り組んでいます。



◆ 学生活動支援センター

学生活動支援センターは、文部科学省による学生支援プログラム「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に、本学の「新しい地球人養成プログラム」が採択され、平成19年11月に設立されました。本学には、農業や林業に関するボランティア活動、リサイクルなどの環境関連活動、ものづくりを基礎とした科学教室の開催など、学生独自の社会貢献活動が多数展開されています。学生活動支援センターでは、これらの学生の地域貢献活動を様々な面からサポートするために、活動上の相談に対する対応や地域との連携のコーディネート、学生が関係する社会貢献活動に関する情報収集を主な業務としています。



◆ アグロイノベーション高度人材養成センター

アグロイノベーション高度人材養成センターは、食糧、水資源、環境、感染症対策など21世紀の重大な課題を解決しうる研究高度人材（アグロイノベーション人材）の育成を目的として、農林水産省、欧米諸国の先進的研究機関、大手商社、証券企業等との密接な連携のもと、以下の養成プログラムを実施しています。

- ・ 若手研究者、産業界、大学教員等が一体となった戦略研究ワークショップ
- ・ 産業界等で活躍している方々の講演会
- ・ ビジネスマナー研修
- ・ メンターの配置
- ・ 国内外の機関における長期インターンシップ
- ・ 海外の研修専門機関によるイノベーション研修

全国の博士後期課程学生及びポストドクターから毎年公正に選抜した20名程度の若手研究者に対して、国内外の企業等での3ヶ月以上のインターンシップを含む実践的かつ高度な養成プログラムを実施し、イノベーションに必要な多面的なスキルを開発することによって、社会要請に応えることができる研究者を創出していきます。

